

Mちゃんが走った日

★
看護職部門
入選

【熊本県・西山由美】

私は30年ほど前、総合病院で新人ナースとして働いていた。ある日、小児病棟から3歳のMちゃん
が転棟してきた。彼女は、トラック
に下半身を巻き込まれ救急に運
ばれてきた患者だった。両足骨折、
骨盤骨折、骨盤内臓器損傷とい
う状態で、救急から小児病棟へ
移った後、私のいる病棟に転棟し
てきたのだった。

Mちゃんは、人懐っこく明るかつ
た。右下腿切断術や、人工膀胱な
どの数々の手術を受ける中、右下
肢に義足をつけ、Mちゃんのリハビ
リが始まった。どうにかリハビリ室
で歩けるようになった頃、病院恒
例の職員運動会が開催されるこ
とになった。Mちゃんの歩行訓練
が進んでいたこともあり、理学療
法士の先生からその運動会の「こ
どもかけっこ」に出ないかと提案が
あった。Mちゃんは出てみたいが、
1人では走りたくないと言い、母
親から「Mと一緒に走つてやつて」
と頼まれ、私が当日一緒に走ること
になった。

五月晴れの当日、麦わら帽子と

白いブラウス姿のMちゃんは「ドキ
ドキする」と言いながら、私の手を
握りしめていた。私は「やつたけ
ちゃん（私は患者さんたちからそ
う呼ばれていた）」と一緒だから大丈
夫だよ」と言いながら、自分もドキ
ドキしているのを感じていた。「途
中で転びはしないか」「義足が途
中で外れたら…」という不安がよ
ぎる中、「よいい、ドン！」とピスト
ルがなった。

Mちゃんは私の手を握ったまま
走りだした。ゆっくりだけど、一生
懸命に手を振り義足の足で走った。
そしてゴールした。その後母親のも
とへ行き、得意そうに「Mね、走れ
たよ」と話した。母親は涙を流し
ながら「よく頑張ったね」とMちゃ
んを抱き締めた。母親と一緒にいた
先輩が、「お母さんね、Mちゃんの
走っている姿を見ながら『Mが走っ
ている。またMの走る姿を見るこ
とができるなんて…』って泣きなが
ら言っていたよ」と話して下さった。
あれから30年、Mちゃんの走って
いる写真を見るたび、Mちゃんに
思いをはせる。